

## 令和6年度 西東京市立学校 学校経営計画

学校名

西東京市立保谷第二小学校

校長名

三澤 亘潤

### 教育理念及び教育目標

西東京市子ども条例の理念のもと、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、あらゆる教育活動を通して、以下の視点で児童が自らの人生をよりよく「生きる力」を育み、このことにより、社会の中で自ら伸びゆく児童の育成に尽くす。

#### 「自ら伸びる」

○よく考える子

○思いやりのある子

○たくましい子

### 学校の特徴

児童：素朴で思いやりがあり、他者とよく協力して物事にあたる。

伝統の動物飼育活動が根付いており、生命の尊さを本質的に理解している。

地域：幼保小中高大が隣接し、MUGG PARK が開園された、文教地域である。

保護者の会、おやじの会、育成会、ホニヤギサポーターなどの活動が盛んであり、地域の教育参画意欲が高い。

職員：変革の時代にあって、自ら学ぶ意欲を糧に、職務のイノベーションを図る気概に溢れている。急速に指導力をつけてきている。

平成 28 年度 西東京市教育委員会研究奨励校（算数）

平成 29 年度 西東京市教育委員会研究奨励校（算数）

平成 30 年度 西東京市教育委員会研究奨励校（道徳）

平成 31 年度～令和 2 年度

西東京市立学校教育研究奨励事業研究指定校（算数）

令和 4 年度 西東京市立学校教育研究奨励事業研究奨励校（コミュニティ・スクール）

令和 5 年度～令和 6 年度

東京都安全教育推進校

### 目指す学校像

（学校像、児童像、教師像）

#### 《目指す学校像》

- ・地域社会との協働により、それぞれの児童の教育ニーズに応じ、次代を担う市民を育む「社会の雛形」としての学校
- ・生涯にわたって心の拠り所となる「地域のふるさと」としての学校

#### 《目指す児童像》

- ・知・徳・体の調和がとれ、自らの向上を図る「自ら伸びる」児童
- ・他者を尊重し、集団の中で積極的に自らの役割を果たそうとする児童

#### 《目指す教師像》

- ・専門職としての使命感と誇りをもち、創意工夫に満ちた指導の充実に努め、子どもの心に灯をともしことのできる「プロフェッショナルの教師」

# 学校経営の目標

## 1 中期経営目標 「オーダーメイドの教育課程」

- (1) 教育効果の向上
- (2) 学校教育 DX 化への挑戦
- (3) 心に寄り添う指導の実現
- (4) 地域に開かれた学校の実現

## 2 短期経営目標 (本年度の重点目標)

- (1) 各教科等を横断したカリキュラム・マネジメントの実施 ← 1(1)
- (2) 各教科等を縦断したカリキュラム・マネジメントの実施 ← 1(1)
- (3) 個別最適化された学びの実現 ← 1(2)
- (4) あったかい学校の実現 ← 1(3)
- (5) 次世代型コミュニティ・スクールの追究 ← 1(4)
- (6) 校務改善による働き方改革の推進 ← 1全

アフターコロナの  
基本戦略「保二小  
テイクオフプラン」

を修正し、  
・市民科の具体化  
・反転学習の重視  
・教科担任制拡大  
の指針を示した。

令和6年度の全ての  
経営目標を貫く  
視点は、PDCAの  
A(アクション)  
の重視である。

# 具体的方策

(短期経営目標を達成するための学校の具体的な取組)

## (1) 各教科等を横断させたカリキュラム・マネジメントの実施 [横系]

- 総合的な学習の時間と道徳科、特別活動を軸に、各教科等の指導内容を横断させ、往還させることで、教育効果を向上させ、深い学びを実現する。
- 地域の教育力を位置付け、横断型の複合単元を集積した「市民科」を展開する。

## (2) 各教科等を縦断させたカリキュラム・マネジメントの実施 [縦系]

- 自ら類推し、既習を再構成して、自立的に問題解決を図るために鍵となる内容を、6年間にわたり抽出したカリキュラムにより、系統的な指導を具体的に進める。
  - ・関数の考え方につながる「保二小 算数科課題改善カリキュラム」の展開
  - ・漢字の構成に着眼した「保二小 漢字指導課題改善カリキュラム」の展開

## (3) 個別最適化された学びの実現 [保二小 どこでもドア構想]

- 自立的な学びを支える「学び方の学び・考え方の学び」を6年間にわたり進める。
  - ・国語科の言語活動と連動した「保二小 調べ学習特設カリキュラム」の展開
  - ・考えの構造化に資する「保二小 思考ツール特設カリキュラム」の展開
- 家庭学習と連携した「反転学習」を進め、指導の選択と集中、効率化を図る。
- モジュール型短時間学習を継続し、現代的「読み・書き・算盤」の習得を図る。
- 私費ドリル電子化、ドローン・メタバースの導入等、教育のDX化を恐れない。

## (4) 「あったか学校」の実現

- 学習環境のユニバーサル・デザイン化を徹底し、全ての児童の学びに寄り添う。
- 不登校や問題行動に対して、個に応じた具体的な方策と評価を通じて向き合う。
  - ・校内委員会やケース会議を問題解決型で貫き、当該児や保護者の参画を図る。
  - ・不登校支援室「COCOLO ルーム」を、集団サポート体制で運営する。

## (5) 次世代型コミュニティ・スクールの追究

- 複合単元「市民科」のカリキュラムを媒介とする地域連携を推進し、持続可能な在り方「コミュニティ・スクール Ver.2.0」の開発を継続する。
  - ・「花」(やぎさわ花エリア構想)と「安全安心」(地域総がかりの防災教育)を軸に、教育活動を通じた地域拠点化を図る。
  - ・「市民科」を通して、「ふるさと探究学習」の先進的な単元開発を担う。
  - ・「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容」に係る単元開発を進める。

## (6) 校務改善による働き方改革の推進

- 学年をまたぐ教科担任制や、会計年度職員とのワークシェア、校務の精選により、教職員が「児童に向き合う」時間を創出する。